

商工会報

あち

第13号

発行 阿智村商工会
43-2241
編集 会報編集委員会
印刷 龍共印刷(株)



駒場商店街

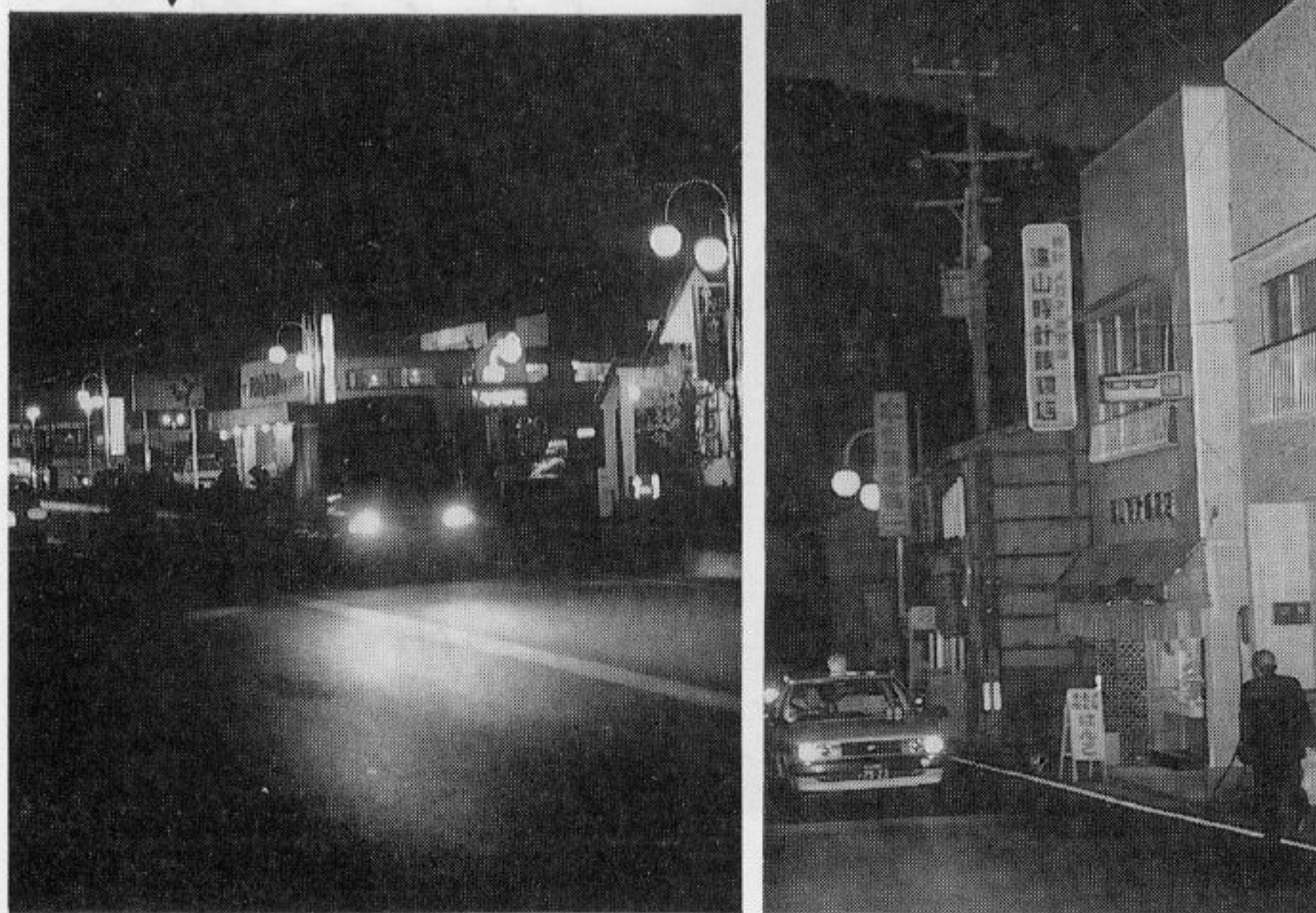
街路灯設置事業完了

—活性化と美化に一役—

3年越しで研究され、本年度工事着工となりました街路灯工事が、
8月下旬完成いたしました。

駒場旧道に取り付けた
街路灯 →

バイパス沿いの
街路灯 ↓



老朽化した街路灯が街の美化を損ねる、との意見があちこちらから持ち上がり、この改修のため昭和六十年に建設研究委員会が設置されました。その後役員改選等もあり、新たに翌六十一年研究委員会が発足し、アンケートのまとめ、先進地の視察、二十回にわたる委員会の開催等重ねて参りました。

六十二年度には、いよいよ建設が決定し、研究委員会を建設委員会に切り替えて、業者の決定、建設の説明会、補助金の申請事務等を進めて参りました。

幸いに村・県の深いご理解により、併せて五百五十万円の補助金をいただく中で、一千万円余りの大仕事が無事に完了を致しました。

その間委員はもとより、会員の皆様方の大きなご理解とご協力をいただきましたことを、紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

この街路灯が街の美化、活性化に結びつくよう、会員の皆様方の一層のご努力とご協力をお願い致します。

—はいつて安心中小企業倒産防止共済—

毎月の掛金

- 毎月の掛金は5,000～80,000円(5,000円刻み)
(加入後増額ができます。減額する場合は一定の要件が必要です。また、掛金は、総額が320万円になるまで積み立てられます。なお掛金総額が掛金月額40倍に達した場合は掛金の掛止めもできます。)
- 掛金は、税法上損金(法人)または事業所得の必要経費(個人)に算入できます。(1年以内の前納掛金も同様に控除できます。)

共済金の貸付額

- 共済金の貸付額は、掛金総額の10倍に相当する額か被害額のいずれか少ない額となります。また、共済金の貸付限度額は、すでに貸付けを受けている共済金の貸付残高を含めて3,200万円となります。

貸付条件

- 無担保、無保証人、無利子(ただし、貸付額の10分の1に相当する額は掛金総額から控除されます。)
- 償還期間は5年(据置期間6か月を含む)貸付元金について毎月均等償還

地域住民総参加の観光開発を

—西部五ヶ村広域懇談会提言—

西部地区五ヶ村商工会主催による広域懇談会が、九月二十日清内路村老人福祉センターにおいて、下伊那地方事務所、各村理事者、議会関係者、役場職員のほか商工会役職員八十余名が参加し盛大に開催されました。

午前中は、講師に東京観光人クラブ顧問の竹村卓也先生による基調講演として、「西部五ヶ村の観光ルートづくり—伊那の観光開発に提言—」と題して講演を聴き、午後は懇談会が行なわれました。

座長に佐々木(阿智村)・広瀬(浪合村)両商工会長、助言者には地方事務所久保田商工課長さんと講師の竹村先生をお願いし、各村の観光対策について説明をいただき、

活発な懇談となりました。

今回の懇談会は、六十二年度に実施した調査研究事業の「西部五ヶ村の観光ルート」づくりに関連して開催されたもので、これからの観光は地域住民全員参加の観光開発でなければならず、自分の立場から自分のできることをすることが、地域の活性化につながるものであることが強調されました。又広域的に県内を結ぶ共通テーマとして、知名度を考えたとき「伊那」と言うブランドで売出す方法、伊那全体を網羅した「アルプス合衆国」案も提言がありました。

尚この懇談会は、西部地区の商工会が毎年一回、各村を持ち回り開催しています。

初のこころみに人気

—親睦マレットゴルフ大会—

秋晴れの十月二日(日)、初めての試みである商工会マレットゴルフ大会が、木槌の森マレットゴルフ場で行なわれました。

会員親睦を目的とするこの事業は、毎年、ソフトボール大会を恒例としてきましたが、所管の厚生部とサービズ部会では、稲刈りの時期で選手



うまいもんだな

が集まらなかつたり、青壮年層で大会が占められたりであったので、年齢や男女を問わず、人数の掌握の必要の無いマレットゴルフを選びました。当日は、女性九人を含む五十三名という大勢の参加を得て最高年齢六十九歳を筆頭に楽しく賑やかに開催する事ができました。

半数近くの人がマレットゴルフは初めてでしたが、ルールもさほど難しくなく、腕力や、年齢、男女差も関係が無いので、あちこちのグループから笑い声や拍手が沸いていました。

山を登ったり降りたり、十八ホールを、全員が無難にこなして、結果は次の通りです。

〔個人の部〕

- 一位 今井 光雄さん
スコア 67
- 二位 久保田光男さん
スコア 69
- 三位 茂沢 利治さん
スコア 71

〔団体の部〕

- 一位 春日チーム
 - 二位 全下町チーム
 - 三位 駒西チーム
- ちなみに、最高齢の方は、五十三名中二十一位でした。

信金だより

しんきんの事業者カード
ローンをご利用下さい。

事業者のみなさんがあらかじめ定めた借入枠をきめてカード一枚で現金自動支払機から事業資金が調達できるシステム融資です。

一、ご利用いただける方：

三年以上同一事業を営んでおり、店舗、住宅又は工場が自己所有の法人及び個人事業主。

一、お使いみち：事業経営に必要な運転・設備資金

一、担保：借入極度額五百万円までは無担保、それ

以上は担保が必要です。

一、融資額
無担保 五百万円まで
有担保 一千万円まで

一、融資期間：二年以内で必要に応じ期間延長ができません。

一、返済方法：定額返済又

は随時返済。

一、連帯保証人：法人は代表者を含め二名。個人は一名です。尚、有担保の場合は代表者及び担保提供者

この融資は信用保証協会付です。

ゴルフ大会と講演の一日 青年部南信ブロック研修会

去る十月二十六日と二十七日の二日間にわたって、商工会青年部南信地区研修会が開催されました。

諏訪・上伊那・下伊那の三部で組織し、年一回ゴルフ大会を兼ねて行なわれる研修会は、本年、当番商工会が諏訪郡の原村商工会で、阿智村からも、部員三名、事務局一名が出席し、総勢八十余名が参加しました。

前日の雨もあがり、快晴に恵まれ、絶好のゴルフ日和でした。日本のパブリック(国営)ゴルフ場の中で、人気第二位を誇る「富士見高原カントリークラブ」には、早朝にもかかわらず大勢の青年部員が参加しました。

開会式に引き続き、原村商工会長と、同青年部員による始球式を終え、手入れのいきとどいたコースを、イン・アウトそれぞれからスタートしました。

午後には汗ばむほどの陽気となり、三時過ぎには全組ホールアウトし、研修の行なわれる原村の「グリーンプラザ

ホテル」へと向かいました。

ゴルフに引き続きの研修会でしたが、全員疲れも見せず、会場へ集合しました。

開会に続いて、青年部の歌及び、誓いの言葉、そして協議会長と、地元商工会長さんのあいさつをいただき、講演会へと進みました。

講師に、全国商工会連合会中央講師である、小川元先生をお招きして、「中央新幹線リニアモーターカーの経過と実現予測」というテーマで講演が行なわれました。

リニアモーターカーとは、超電導磁気浮上方式で、空中に数cm浮き上がり、時速300kmという速度で走行する未来の鉄道で、現在は、実用化に向けて、実験線による研究・開発が続いているが、まだまだ、予算やその他の面で問題が残っているという大変興味ある講演をいただきました。

続いて原村商工会青年部と高遠町商工会青年部による事例発表がありました。どちらの青年部も、観光を中心としたイベントなどに参加し、

村おこしに役立っているそうです。

事例発表の後、研修会を閉会し、待ちに待った懇親会に移り、ゴルフ大会の成績発表

や同表彰式などが行なわれました。

翌日は、原村ペンションビレッジや、観光施設などの視察研修を行ない本年度の南信

地区青年部研修会が終了しましたが、高原の澄んだ空気の中での二日間は、大変有意義なものでした。

新春講演会・新年総会のご案内

恒例となりました新春講演会と新年総会の日程が決まりました。

講演会の講師には『7時のニュース』でおなじみの、NHKきっての熱血アナウンサー松平定知氏を迎えて、ニュース表現のあれこれを語っていただきます。



松平定知氏

ニュースは、毎日見聞きするもので、商工業者の皆さんにとっても特に、政治、経済のニュースは、欠く事の出来ないものです。この機会に、ニュースの見方・聞き方のノウハウを学び、明日の事業に役立てましょう。

この講演会は、商工会員であるなしを問わず、どなたでも講聴できますので、お気軽にお越し下さい。

講演会終了後は、引き続き会員新年総会を行ないますので、併せてご出席下さい。

日時：昭和64年1月21日(土) 午後1時45分
場所：阿智村商工会館
テーマ：ニュース表現のあれこれ
講師：NHKチーフ・アナウンサー
松平 定知氏

<松平氏プロフィール>

昭和19年11月7日旧・満州の新京に生まれ、東京で育つ。当時、父はかの地で総領事の仕事を担当。本

籍は愛媛県松山市。徳川家康の異父弟・久松定勝を祖とする久松松平の傍流の末裔の家に生まれる。磯村尚徳氏は従弟に当たる。

昭和44年4月早稲田大学・商学部卒業。卒業と同時にNHKに入局。初任地は高知で、5年間の高知放送局勤務を経て、昭和49年8月より東京アナウンス室に転勤。昭和49年9月から半年間、教育テレビの大学講座『ケインズ経済学』を担当。昭和50年4月から3年間『みんなの茶の間』のラジオ番組を担当。昭和53年4月から『ひるのプレゼント』を2年間、昭和55年4月から『朝のニュースワイド・スポーツコーナー』、同時にNHKホールからの生の歌番組も担当。昭和56年4月から『連想ゲーム』を3年間、その間に『日本語再発見』『いっと6けん』も担当。昭和59年4月から『きょうのスポーツとニュース』、そして、昭和60年4月から『7時のニュース』を担当し、現在に至る。

“ニュース表現” “上手な話し方教室なんてウソだ” “子育ては親育て” “いまを熱く伝えること” “スピーチのノウハウ” “ベストドレッサー賞を受賞して、私のファッション考” “キャスター論” などの巾広い演題をもち、それぞれのノウハウを楽しく明かす。

著書『負けずにキザですが』『いっと6けん小さな旅』

固苦しくなく、わかり易く、爽やかな『読後感』のある話をと、心がけ、ブラウン管に登場。今やNHKの顔の一人として人気を博す。

越後路瀬波の旅——旅行記

隔年実施の商工会親睦旅行が、十一月六日・七日と行なわれました。参加者は、女性九名を含む三十三名で、ただいまテレビ・マスコミで有名な新潟県黒川村を視察して、村上市の瀬波温泉に宿泊、海の幸とおいしいお米をたらふくいただきました。以下参加者の方の旅行記をご覧下さい。

「清い水の流れる地」

黒川村を訪ねて

信金 土屋章尋

朝まだ暗い五時、外は霜で自動車の窓は真っ白く氷りついています。今日はすばらしいお天気にめぐまれての商工会研修旅行出発の朝です。

初めての参加で緊張感も手伝ったのか一段と寒さを感じバスに乗り込みました。日頃お世話になっている商工会長さんはじめ商工会員の方達との旅行は地元金融機関として大変ありがたい思い参加させていただきました。

今回の旅行は、村おこしから観光に結びつけた村の研修であり阿智村に居る者として、見て、聞いてくるには絶好の機会と考え参加させていたいただきありがとうございます。中央道から十九号線を経由

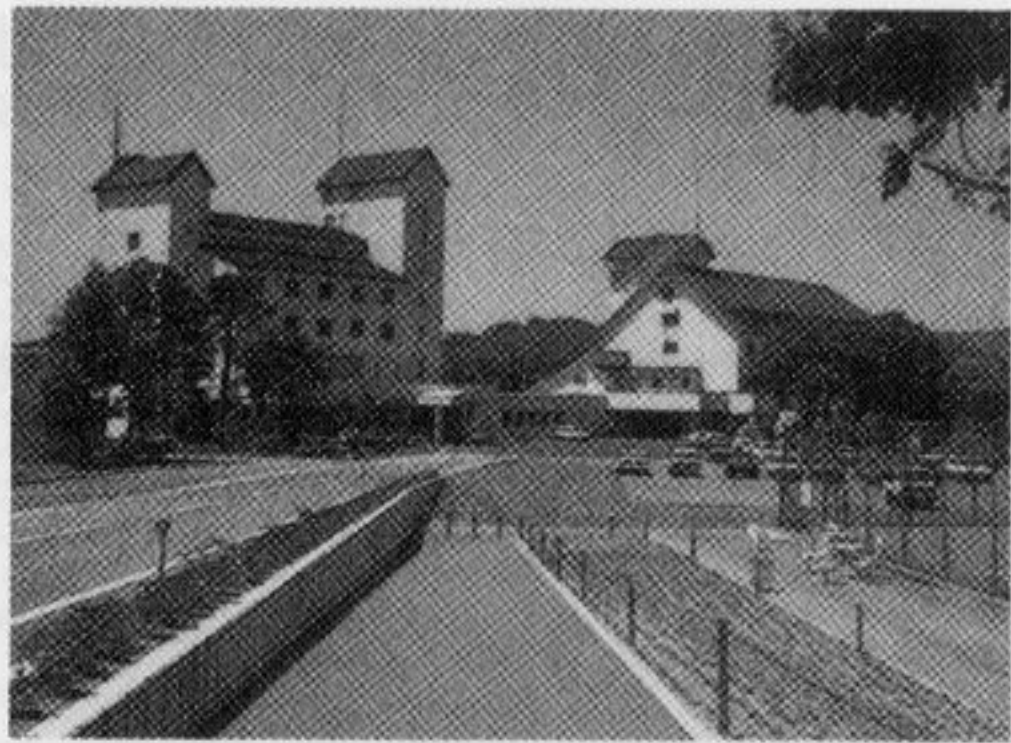
し長野から北国街道への道は川と山に囲まれ、青く晴れわたった空に紅葉がまぶしく輝いていてすばらしい晩秋の旅でした。三十三名の参加でゆったりしたバスの中は酒が入るにつれ楽しい雰囲気となりすばらしい歌、おもしろいお話とまるで演芸会場と化した車中でした。

五五〇キロメートル余の道程でしたが、十二時間経った午後五時三十分瀬波温泉ホテルに着きました。村上市は新潟県の一帯北の市で山形県に近い鮭の街です。

研修の目的の第一である黒川村(原油の湧く日本最古の地)が村おこしから観光の村になった経過を聞いて、これこそ村おこしのお手本と感心いたしました。黒川村の一部を胎内(清い水の流れる地、アイヌ語)と名付け、村の職

員百二十名でホテル、牧場、ソバ屋、スキー場、テニス場、遊園地等を運営し村民総てが村営の施設で働き村外の業者は一人も入っていない様子は、地元農業を観光に結びつけ行政と村民が一体となっている事がうらやましく不思議に思いました。又、当地の清い水で酒を造り、農家がつくったソバをお土産とし、エジプト原産のヘルシーな野菜で作った「モロヘイヤうどん」をホテルで販売、子牛は胎内牛として、総てが村で作られ村の特産品として利用されているとの事です。人口は六千人余ですから阿智村とほとんど変わらぬ、観光は昭和四十一年から着々と広げ現在では年

間観光客が八十万人も入村しているとの事でした。施設全部を見て帰りたかったのですが、時間がなく残念でした。ホテルすずきヶ池の部屋から見おろす日本海は山国信州人にとってはすばらしい眺めでした。日本海で取れた新鮮な魚は酒を一段とおいしく最高の宴会となりそれぞれ思い出多い一夜を明かしました。二日目のバスは朝から昨夜の事で笑いの渦となり全員がうちとけておりました。弥彦神社参拝後、寺泊で新鮮な魚をお土産に、しっかり買い込み、一路帰途につきました。



村営のホテル(胎内パークホテル)

二日間すばらしい天候に恵まれ、すばらしい人達と出会い、楽しい車中で過ごした旅は、計画された事務局の方々、厚生部の方々のお骨折りと感謝いたします。又車中を楽しんでくださった会員の方にお礼を言うと共に皆様方のご健勝と商工会のご発展を祈念し次回の旅行に参加できる事を楽しみにしています。

夜の余韻をバスの中に持ち込んで、二日目の昼食は佐渡ヶ島に一番近い港、寺泊。カニと鮮魚でアルコール漬

の腹を満たして、みやげ物の本命鮮魚センターへ十数人の店が軒を連ね、それが又観光客で埋って、まるで正月用品を買い漁る年の瀬のマーケット風景のごとくでした。大きな駐車場も乗用車から大型観光バスで満杯、先を競って店内へ。

裸電球に映える、名物ズワイガニから鯛、エビ、ハマチにマグロまで、日本をとりまく海の幸が全部集結したところの豊かさに目をみはりました。

まるで魔術の港

「寺泊」

小松勝文

夢のごとくの瀬波温泉の一



賑わう鮮魚センター

売り手の掛け声に四方八方から、万札をつかんだ手、手……。気の小さい小生にはタイミングがつかめず、しどろもどろ。雰囲気と、先客の

札ピラ切りの良さに思わず手の出る様は正に魔術のごとくでした。小生も一匹二千五百円が一番高価なズワイガニを三匹いや五匹も買ってしまい、他にも「鱈の開き」を一箱、「イクラ」一パックと言った具合に後悔するであろう事を予測してすら、魔術にかかってしまいました。

買った魚貝類を発泡スチロール箱に氷詰めにして梱包してもらおう場所があるのでありますが、ここが又長蛇の列、二十分待ちとかで大変でした。この発泡スチロールの大き

な箱を一つ、二つ、新型大型バスの下部にある広い荷物ストッカーはたちまち満杯。何しろある御婦人は台車で男性同僚に運んでもらうあり様。何とも鮮魚と言うか、寺泊の魔術の威力を見せつけられた一時でした。

昼神の朝市も大いに参考にさせてもらえそうです。翌日の夕食は常日頃質素な我が家に、色どり豊かな海の幸、子供達の満足気な顔に、飛び去って行った万札の重さをしぼし忘れた一時でございました。

高橋由美子さん
笹 明美さん
松島 三恵さん
内田 京子さん
原 理恵さん
佐々木志穂さん
脇坂 昌之くん
小池 一幸くん
下島 弘和くん
水野 修二くん
佐々木忠志くん

珠算検定合格おめでとう

十一月二十日(日) 商工会館において、第八十回国商工会珠算検定試験を行いました。今回の受験者は百五十五名、合格者は五十名、合格率は三二・三%でした。一、三級の合格者は次のみなさんです。

二級

- 林 美香さん
- 田中 理恵さん
- 酒井 美樹さん
- 佐藤 元裕くん

三級

- 小林由紀子さん
- 小山 葉子さん

次回の検定試験は、六十四年二月十九日です。

晩秋の越後路へ

虎岩富子

十一月六日早朝、参加者十三名を乗せたバスは、晩秋の越後路の旅へ出発しました。車内は、飲み物が入る程に全員が打ち解け、カラオケの歌が出、話に花が咲き、笑いの連続で、時のたつのも忘れ

るほどでありました。バスは、新潟の美しく穏やかな日本海を眺めながら北へ進み、豪農の館へ着きました。この館は、越後屈指の大地主、伊藤家が本邸を後世に残すため北方文化博物館に寄付されたそうです。

広い敷地内には、幾棟もの建物があり、中でも、ひときわ大きい母屋と三角形の家は目を引きました。ガッチリとした梁、太い柱、広い数々の部屋、立派な書画・調度品が展示してあり、当時の繁栄ぶりが偲ばれましたが、その陰に幾多の涙を流した人がいたのではと、フツと頭をかすめました。

村おこしで成功して、全国的にも有名な黒川村へ着いた頃は、もう日暮れでした。観光課の方のお話を聞き、昆虫館を見せていただきましたが



商売繁盛を願って弥彦神社へ参拝

リゾート施設を造り、パークホテルを建て、その食料を自給自足している様子を、もつと見学させていただきたかったと心残りでありました。瀬波温泉の宿は、十一階建ての大きなホテルでした。バスを降りると、若い女の人がピンクの着物に紫紺の袴姿でおしぼりを渡してくれたのはビックリしました。

宴会は、歌にダンスには、はたまたドジョウすくいまで飛び出して大賑わい。お料理は生きのいいカニ、お魚に、近くを流れる三面川みおもての鮭が、幾種類にも調理されてお膳の上

に出されましたが、私はパリッパリとした鮭の皮の唐揚げを、美味しくいただきました。

二日目は、明け方の雨も上がり良い天候に恵まれ、車内も、珍解答の高等数学まで出て大爆笑。たちまち昨日のよ

うな賑やかさになりました。弥彦神社は、越後一の宮というそうで、平日というのに大勢の参拝者で賑わっており、丁度、大菊花展が開かれており、色とりどりの菊が並べられ、私達の目を楽しませてくれました。

良寛堂は、日本百景第一番目選ばれたという名所で、佐渡ヶ島を望む小高い所にある、良寛様の生家跡に、首を丸めて座っている良寛様が、海をみつめて建てられているのが印象的でした。

新潟県を離れ長野県に入る頃は、日もとつぷりと暮れ、新潟ならではのコシヒカリと生きのいい魚を土産に、バスは、一路家路へと走りました。

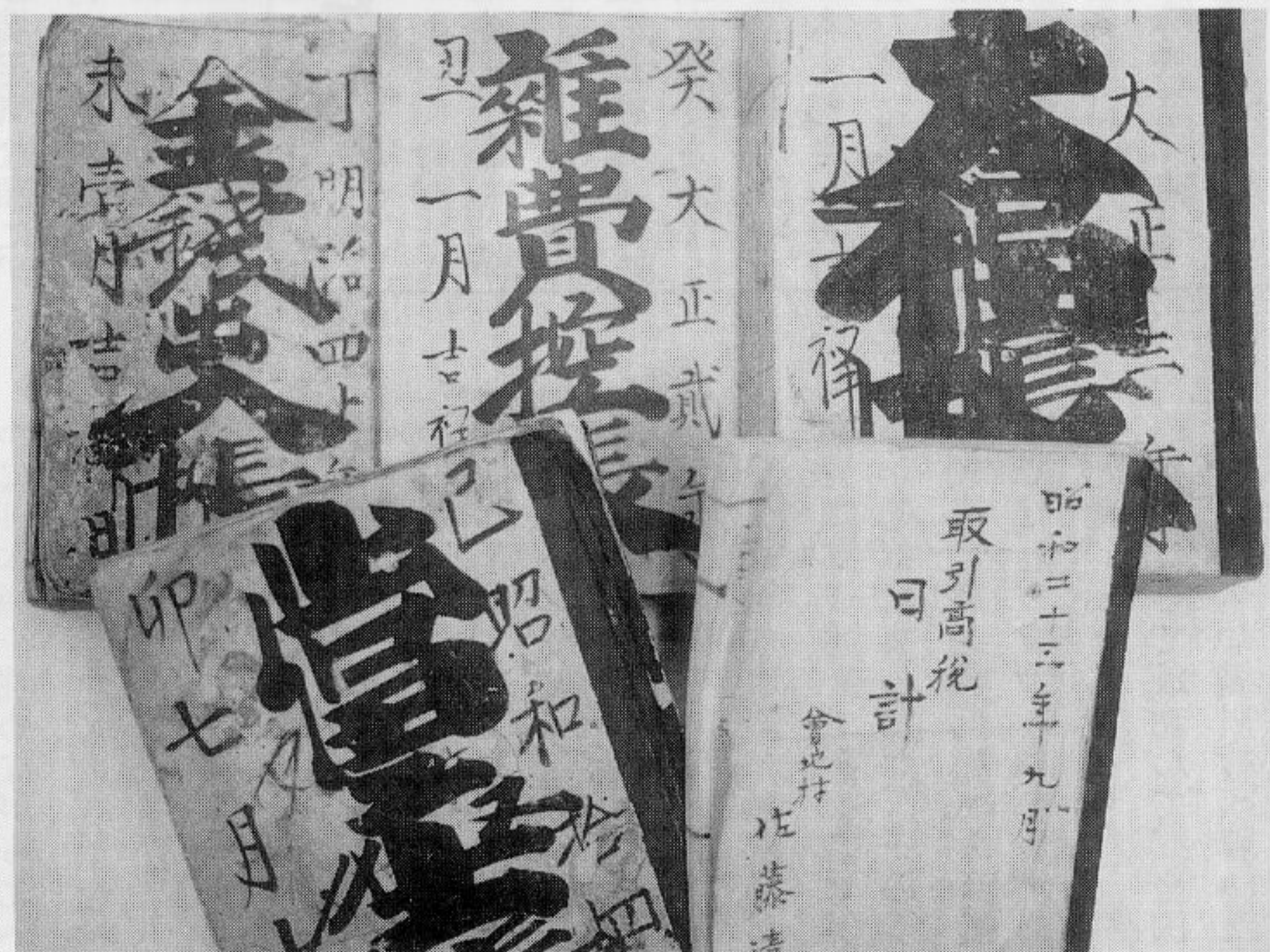
往復一、一〇〇キロの旅でありましたが、終始、和気あいあいの旅で、企画をされ、道中のご配慮をいただいた商工会役職員の皆様のお陰と厚くお礼申し上げます。

ファッション「ピア」三柵屋・佐藤忠夫さん所蔵

昭和31年1月2日の初売りの店舗。日が昇り客足も途絶えたころ

戦火の中、農商省が昭和19年4月に発行した衣料キップ。注意書きからは当時の政府の困窮さがうかがわれる

明治・大正・昭和にかけての商い記録帳 取引高税の日計表もある



シリーズ 我が家の秘蔵写真 第四回

三柵屋さんは、先々代が衣料・呉服の生地で有名な愛知県古知野町で衣料の行商をしており、明治初期に、この駒場に店を構えました。

同じ頃、兄弟親戚四人も、下条・竜江・河野・阿島に、商いの拠点を構え、現在も二軒が三柵屋の角三マークで活躍しています。

この三柵屋さんの屋号のいわれは、三つの柵に物と心と人を表わし、いい物を、真心こめて、大勢のお客様に買っていただく様にとつけられたそうです。上の写真は、初売りの日に雪が降り、路地まで出た陳列台に、雪がかからないうちにダンボールで雪除けをしてあります。左手のショーウィンドーは、昭和三十四年の伊勢湾台風により吹き飛ばされてしまったそうです。

当時の初売りは、二日の朝暗い内から、カゴを背負った人々が、近隣村からやって来て、駒場商店街も賑やかだったそうです。

上の左の写真は、戦時中、物資統制下にあった頃、農商省が昭和十九年四月に発行した衣料キップです。注意書きを読むと、「決戦下の中、衣料切符の枚数も少なくなりました。

ので、今一層、衣料品の消費節約と手持衣料品の補修活用に心掛け、衣生活を戦いぬいてください」とあります。戦争により当時の庶民生活が、困窮していたことがうかがえます。

また「婚約の整った婦人・妊娠五ヶ月以後の婦人・火災盗難その他の災禍により衣料品を損い或は失くした人は、特別の衣料切符を発行します」とあり、戦時下にあったとはいえ、弱者への、国の配慮もあったようです。

右下の写真は、先々代が、開業当初より、記帳を心掛けて、古い物では明治二十三年の金銭出納帳もあります。現在、国会で審議されている消費税の前身ともいえるうか、終戦直後の取引高税の日計表も右下にあります。

現在は、実に衣料品も多くなり、デザインも豊富で、特に婦人物は一年経過すると売れなくなり、目まぐるしく変わっているそうです。また、防寒具も、生地が良くなったのと気候が温暖になったのか消費も少なくなってきたかと、昔を振り返って感慨深げに佐藤さんは語ってくださいました。

商業部会・工業部会・建設部会の合同視察が、十月十一日(火)に行なわれました。

三部会合同の視察は、今回が初めてですが、経費の面や参加者の面でも効率が良く、その上、他業界の動向を互いに知る上でも良いということ、三十五名の参加により実施されました。

工業部会では、浜松市砂山銀座商店街の視察をし、その折に、浜松市商工会議所中小企業経営委員・浜松技術交流プラザ助言者・浜松市長野県人会長の肩書きを持つ羽生紀夫さんに説明していただきました。それによると、この商店街は、JR浜松駅の南口に位置しており、北口の大型店ラッシュに押され、四十年代より衰退しはじめましたが、買い物客が列をなしていた全盛期をもう一度と一念発起して市の後押しで、水道管・ガス管・電話線などを地下に埋設し、路面をカラー舗装にして個々の商店が取り付けている看板をすべて取り払い、商店街全体を網羅した統一看板をアーケードからぶら下げ、細かな点まで配慮した商店街づくりに心掛けたそうです。工業部会では、鈴木自動車

三部会で合同視察 —愛知県・静岡県方面—

工業(湖西工場)を見学しました。参加者の中には、自動車マツト加工業者も多数いましたので、車の生産ラインから検査まで、興味深く見学しておりました。また、この工場では、六十年の円高以降、早と海外工場へ主力を移し、海外工場への部品を生産、梱包するノック・ダウン工場も併設されており、大企業ならではの経済変動への対応の良さに感心いたしました。

建設部会では、(株)マキタ電機製作所を見学しましたが、当部会の部員には、大工さんが多く、日常使用している工具類の製造工程では、説明者の方と話が弾んでおりました。工場敷地も五万坪と広く新入社員の方は、工場内で迷ってしまう事が度々あるそうです。ここでは、財産・損益に関する資料説明もあり、創業以来、無借金経営で通している堅実企業でもあります。特に、在庫管理では、無人の大きなビルの中に、従業員一人でコンピューターを操作して管理しているところは圧巻でした。参加者の皆さんも、これを参考に、商工会発展のために役立ててくれるものと思います。

当時は、地域住民のほとんどが、現金収入を求めて村内外へ勤務をしており、遊休荒地が増えるばかりでした。そこで、この地を使い、自然を破壊しないで、地域の労働力によって、能力・体力にあった農業生産をしよう。その上で、昼神温泉を核として、観光客に農業体験や、リンゴ、ナシ、ブルーベリー等の自然を遊歩してもらい、この地で再び人間を取りもどしてもらおう人間蘇生園づくり(コメット構想)に着手しました。

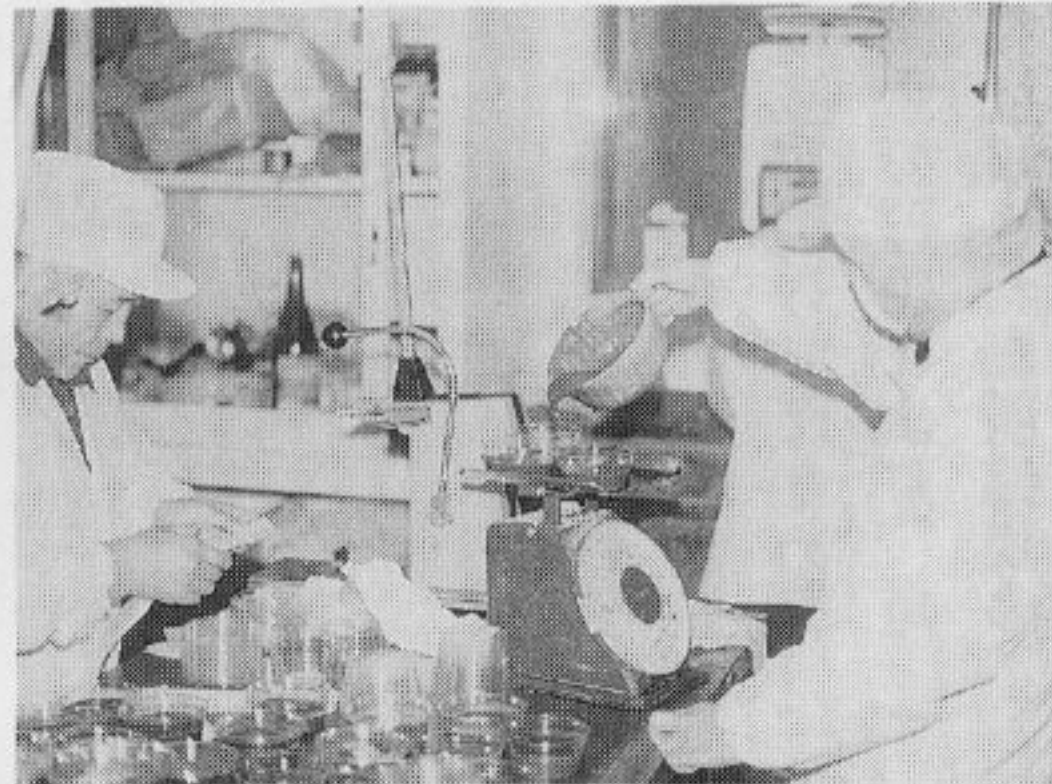
今では、この主旨に賛同した若者が県内外から来て、村づくり地域づくりに活躍しております。

来年3月には、国道153号線沿いに、冬場の就労確保のため、大野・中野農産物集出荷貯蔵施設と直販施設が建設されます。また、今年1月にオープンした昼神観光センター内にある食堂「ひるかみも、手打そば、メンパ飯が好評で、売上も徐々に伸びております。温泉朝市も、今まで冬期間は休んでおりましたが、今年度より、観光センター内で冬場も行なう予定です。

現在の悩みは、年間通しての農産物原料の確保がむずかしく、智里東地区に限らず西地区、伍和地区、老人クラブ等への契約栽培を働きかけてゆきたいそうです。また労働力も農繁期になると人手不足となるので常勤職員を確保して充実させ、地域の中で安定した職場づくりに心掛け、親子一緒にずっと暮らせる地域をつくり、この地に生まれて、育て、嫁いで良かったといわれるような故郷にしたいと夢も語ってくれました。

- 《モットー》 ・『死ぬまで、その人の能力・体力にあった仕事がある。これが最良の福祉である』
- ・『理論より行動』

企業探訪 No.12 智里東農事組合法人



もろみのパック詰め作業

初冬を告げる北風が、木の葉をまき散らす寒い11月初旬、小松組合長さんに、外の冷たい風とは打ってかわって熱っぽく語っていただきました。

- 《代表者》 組合長 小松勝文
- 《創業》 昭和61年4月(任意組織としての東会は昭和57年11月)
- 《出資金》 980万円 《組合員》 45名
- 《従業員》 12名(男8名,女4名)
- 《施設》 農産物加工所 食堂「ひるかみ」(昼神観光センター内)
- 《主な製造販売品》

柿酢、五色餅(みそ餅,こきび餅,草餅,豆餅,雪餅)、味噌(もろみ味噌,ごま味噌だれ)、漬物(ふるさと漬,柿酢漬,しまうり粕漬,みょうがの酢漬,うめ漬,らっきょう漬)、こんにゃく、いなごの佃煮、その他農産物及び農産物加工品

当組合は、昭和61年4月に、任意組織であった東会ひがしかいを正式に法人化し、現在では、村の活性化になくてはならない存在となりました。

東会設立当時は、智里東小学校の統合問題で地域は大きく揺れ動き、学校存続の上でも、子供がいないことには……。それならば、若年層の定住可能地づくりをと、何人かの若者が発起人となり設立されました。



昼神温泉と

セツトで視察

この一、二年県内外から、研修に訪れる商工会関係者が増えておりますが、昼神温泉の発展によるところが多く期待がよせられています。

最近も、商工会へ研修のため訪問がありましたので紹介します。

〔十月十四日〕

兵庫県内の経営指導員二十二名来会

・阿智村の観光対策について
(役場産業課岡庭一雄係長)

・昼神温泉朝市について
(智里東農事組合法人小松勝文組合長)

研修し昼神温泉観光センター、ショッピングタウン・ピア、栄松庵(春木屋)を視察。
〔十月十八日〕

静岡県盤周地区商工会(佐久間町商工会他) 役職員来会
・既存国道の整備による影響と三遠南信高規格道路建設促進への対応について

・阿智村の商工観光について
研修しショッピングタウン・ピア、栄松庵を視察。

上町商店街

駐車場のご利用を

今年の五月上町商店街の駐車場を、持主の矢沢さんのご都合でお返しをしてから、商店街ご利用のお客様方に、大変ご迷惑をおかけして参りましたが、この程小池産業前の駐車場の一部を、商店街ご利用

用のお客様用に、整備をいたしました。商店街の道路整理のため、せいぜいご利用下さる様、お願い致します。

食協阿智支部が

優勝

第四十回食品衛生協会親睦野球大会が、九月二日(金)に飯田市宮今宮球場と県営グラウンドで開催されました。当日は、飯伊地区から、二十一チームが参加して熱戦を

繰り広げ、当阿智支部がみごと優勝を致しました。朝八時の試合から、夕方六時まで延々と戦い、戦績は次の通りでした。

- 一回戦 鼎支部 3-0
- 二回戦 風越飲食店組合 6-3
- 三回戦 伊賀良支部 5-0
- 準決勝 高森支部 3-0
- 決勝 松尾支部 6-4

完了することになります。

ただし、

- 一、給与の収入金額が一五〇〇万円を超える人
 - 二、給与所得及び退職所得以外の所得が二〇万円を超える人
 - 三、災害による源泉所得税の徴収猶予や還付を受けている人
- などは、確定申告をする必要があります。詳しくは商工会へお尋ねください。

年末調整はおすすめですか？

サラリーマンの所得税は、毎月の給料やボーナスから源泉徴収されています。しかし、毎月源泉徴収された所得税の年間合計額と、その年の給与総額に対する税額(年税額)とは、次の理由などにより必ずしも一致しません。

- 一、結婚や出産、就職などで扶養親族の人数が変わると、扶養控除等の金額が変わるため
- 二、生命・損害保険料の控除や配偶者特別控除などは、毎月の源泉徴収では考慮されないため
- 三、「給与所得の源泉徴収税額表」は、毎月の給与

等の額が変わらないものとしていたため

四、特に本年は、「六十三」年分の所得税の臨時特例「法」が施行され、税負担の軽減が図られたためこれらの理由により、毎月源泉徴収された所得税の年間累計額と給与総額に対する年税額には過不足が生じます。

この過不足を、その年の最後の給料やボーナスが支払われる時に精算すること「年末調整」といいます。この「年末調整」により、納め過ぎの場合には還付され納め足りない場合には徴収されて、その年の納税が

編集後記

〇……商工会報「あち」も回を重ねて第十三号の発行となりました。

全国商工会連合会発行の雑誌「商工会」十一月号で、全国優秀商工会報の「魅力ある特集企画とは何か」の記事の中で、商工会報「あち」の「我が家の秘蔵写真」が紹介されて、他県の商工会から会報送付の要請も参っております。

更に充実した会報となるよう、会員各位の積極的な協力をお願い致します。

〇……今年夏は夏の長雨、一ヶ月も早い雪の訪れ等不順な天候の連続でした。国民の主食の米も値下げに加えて、不作、品質の低下が心配されております。色々と暗い話題の多い秋でしたが、当会では街路灯設置の完了、製造業を中心とした工業の活況等明るい話題もありました。

〇……今回の村議選は、村始まって以来初めての無投票でしたが、十八人の選良が揃いました。向う四年間健康に留意され、難しい時代の阿智村の舵を上手にとっていただきたいと念願する次第です。

